

2016年度 大阪大学 前期 地理

(I) 自然環境と生業・土地利用

出題範囲	気候, 農牧業
難易度	★★★☆☆
所要時間	45分
傾向と対策	さまざまな地域の気候と土地利用, 牧業の形態についての問題。問われている事項のほとんどは基礎的な内容で, 何を書くかそれほど迷うわけではないが, 記述量も多く, 解答を短時間で組み立てるのは難しい。資料集レベルの基礎的な内容を丹念に定着させておくこと, 同様の記述量の多い問題に何度も取り組むことが有効な対策となるだろう。また, 字数の多い論述問題では, 解説中の表のように一旦情報を整理して書くようにしよう。

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい地名を青字で記載した

解答例

- 問1 チャラは海岸砂漠の広がる耕作不適地であるが, オماغアでは熱帯雨林の中で粗放的な焼畑農業が営まれる。温暖湿潤なユンガでは熱帯作物のコーヒー, 綿花, サトウキビなどの商品作物のプランテーション栽培が行われる。ケチュアは冷涼乾燥であり, トウモロコシ, 小麦の栽培が盛んである。さらに高度の高いスニでは, 耐寒性に優れたジャガイモが栽培される。農作物の栽培限界を超える高度のプナでは, リヤマやアルパカの放牧が行われる。(202字)
- 問2 アンデスでは, 農作物の栽培限界を超えた冷涼乾燥気候の高地でリヤマ, アルパカの放牧が行われる。リヤマは荷役用, 食用, アルパカは採毛用に飼育される。ヒマラヤでは寒冷な気候下で, 季節に応じて垂直的に移動するヤクの移牧が行われる。ヤクは荷物の運搬, 肉や乳, 毛の利用のほかにも糞を燃料として利用する。アラビア半島では高温乾燥な気候下で乾燥に強い羊, ヤギ, ラクダの遊牧が行われる。羊とヤギは肉と乳, 毛の利用が中心であり, ラクダは荷役に用いられる。(217字)
- 問3 西側では, 高温多湿な気候下で熱帯雨林やサバナが広がり, 焼畑農業によるキャッサバ, バナナなどの自給的な栽培が行われる。また, ギニア湾岸を中心にカカオ, 落花生, コーヒーなどの商品作物のプランテーション農業が盛んである。東側は, 標高の低いサバナ気候の地域と標高の高い温帯気候の地域に分けられる。低地ではソルガムやトウモロコシなどの耐乾性食物の自給的栽培と牛の飼育が行われるが, 高地では茶やコーヒーなどの商品作物, 花きの栽培が行われる。(215字)

問1 難易度：★★★★☆

解答例

チャラは海岸砂漠の広がる耕作不適地であるが、オマグアでは熱帯雨林の中で粗放的な焼畑農業が営まれる。温暖湿潤なユンガでは熱帯作物のコーヒー、綿花、サトウキビなどの商品作物のプランテーション栽培が行われる。ケチュアは冷涼乾燥であり、トウモロコシ、小麦の栽培が盛んである。さらに高度の高いスニでは、耐寒性に優れたジャガイモが栽培される。農作物の栽培限界を超える高度のプナでは、リヤマやアルパカの放牧が行われる。(202 字)

解説

アンデスの高度別の地域呼称に従って、地域ごとの土地利用の形態をまとめていく問題。知識としては基礎的な内容も多いが、過不足なくまとめるのには相当の実力を要する。

地域名	主な土地利用
チャラ	沿岸を流れる寒流（ペルー海流）の影響で海岸砂漠が広がる →耕作不適。土地利用に乏しい。
オマグア	熱帯雨林が広がる→自給的な焼畑農業。開発が進んでいない。
ユンガ	温暖湿潤→コーヒー、綿花、サトウキビなどのプランテーション農業。
ケチュア	比較的冷涼乾燥→小麦、トウモロコシの栽培が盛ん。
スニ	高地で冷涼→アンデス原産のジャガイモの栽培が盛ん。
プナ	作物の栽培限界を超える高地→リヤマやアルパカの放牧が営まれる。

上記の表のように整理し、解答として記述すればよい。高度別の地域名称の重要度は高くないが、内容面ではチャラとオマグアの書き分け以外は頻出事項である。

問2 難易度：★★★★☆

解答例

アンデスでは、農作物の栽培限界を超えた冷涼乾燥気候の高地でリヤマ、アルパカの放牧が行われる。リヤマは荷役用、食用、アルパカは採毛用に飼育される。ヒマラヤでは寒冷な気候下で、季節に応じて垂直的に移動するヤクの移牧が行われる。ヤクは荷物の運搬、肉や乳、毛の利用のほかにも糞を燃料として利用する。アラビア半島では高温乾燥な気候下で乾燥に強い羊、ヤギ、ラクダの遊牧が行われる。羊とヤギは肉と乳、毛の利用が中心であり、ラクダは荷役に用いられる。(217 字)

解説

アンデス、ヒマラヤ、アラビア半島の牧畜の違いについてまとめる問題。比較する指標として自然環境、牧畜形態、家畜の利用法の3点が挙げられているので、これに沿って素直に解答を仕上げるのがよいだろう。

地域	自然環境	牧畜形態	家畜の利用法
アンデス	冷涼乾燥の高地	リヤマ・アルパカの放牧	リヤマ→荷役、肉 アルパカ→毛
ヒマラヤ	寒冷な高地	ヤクの移牧	ヤク(牛の一種)→乳、肉、毛、荷役、糞を燃料として利用
アラビア半島	高温乾燥の砂漠が大部分を占める	羊・ヤギ・ラクダの遊牧	羊・ヤギ→乳・肉・毛 ラクダ→荷役、乳

牧畜形態の書き分けがポイントとなる。

放牧は、基本的に一定の土地に定着し、家畜を屋外の草地に放し飼いにすることである。前問でも触れたが、アンデスの農作物の栽培限界を超えた高地では、まばらな草を飼料としてリヤマやアルパカの放牧が行われる。

移牧は**アルプ**などで見られ、季節ごとに斜面をのぼりおりして牧畜を行う。春・夏は飼料用の草が生えている標高の高い地域へ移動し、秋・冬は厳しい寒さを避けてふもとの家屋の舎内で飼育するのが一般的な形態である。ヒマラヤのヤクの牧畜形態が移牧であることを知っている受験生は少ないので、解答の中心部分ではあるが得点差のつく部分ではないと思われる。

遊牧は家畜とともに水や草を求めて一定の距離を移動する牧畜形態である。中央アジアから北アフリカの砂漠・ステップ地帯では羊やヤギ、ラクダや馬の遊牧が行われ、移動の際に使用する移動式テントはそれぞれ中央アジアでは**ユルト**、中国では**パオ**、モンゴルでは**ゲル**と呼ばれる。また、北極圏の寒冷な地帯でもトナカイの遊牧が行われる。ヒマラヤでのヤクの牧畜は高地での遊牧として紹介される場合もあるため、そちらを書いても解答として許容されるであろう。

以上のポイントに留意して書くと200字程度というのはかなり余裕のない字数であるので、コンパクトにまとめよう。

問3 難易度：★★★★☆

解答例

西側では、高温多湿な気候下で熱帯雨林やサバナが広がり、焼畑農業によるキャッサバ、バナナなどの自給的な栽培が行われる。また、ギニア湾岸を中心にカカオ、落花生、コーヒーなどの商品作物のプランテーション農業が盛んである。東側は、標高の低いサバナ気候の地域と標高の高い温帯気候の地域に分けられる。低地ではソルガムやトウモロコシなどの耐乾性食物の自給的栽培と牛の飼育が行われるが、高地では茶やコーヒーなどの商品作物、花きの栽培が行われる。(215字)

解説

アフリカ大陸の低緯度地域における自然環境と生業・土地利用について、大陸の西側と東側を対比させながらまとめる問題。アフリカの地図が示されているところから、北緯10度と南緯10度の低緯度地域に具体的にどの国・地域が含まれるのかを把握したうえで、生業・土地利用について記述するのがよいだろう。

	自然環境	生業・土地利用
西側	高温多湿な熱帯雨林気候、サバナ気候	キャッサバなどの焼畑農業が中心。熱帯作物の栽培が盛んだが、特にギニア湾岸ではコーヒー、カカオ、落花生、サトウキビなどのプランテーション農業が盛ん。
東側	低地→サバナ気候。乾季あり。	ソルガムやトウモロコシ(ウガリ)などの耐乾性穀物の栽培。牛の牧畜。
	高地→温帯気候。	小麦などの穀物の栽培に加え、サイザル麻や茶、コーヒーなどの商品作物の栽培。近年は温帯気候を生かして花きなどの園芸作物の栽培も盛ん。

西側は、熱帯雨林気候下もしくはサバナ気候下にある熱帯の地域である。伝統的に主食を栽培してきた焼畑農業に加え、ギニア湾岸でのプランテーション農業について触れたい。

東側は低地と高地にわけて考えるとよい。低地では乾燥サバナの基本的な農業形態であるトウモロコシ、ソルガムといった乾燥に強い主食となる作物の栽培と、牛の牧畜を挙げた。高地はその標高の高さから降水量、気温が1年を通して安定していて、過ごしやすい気候となっている。旧イギリス植民地であるケニアには、白人が入植して開発した経緯からホワイトハイランドと呼ばれる地域がある。その安定した温暖な気候を背景に、小麦などの主食に加えて茶やコーヒー、サイザル麻といった輸出用の商品作物のプランテーション農業が盛んである。最近では輸送手段の発達により、花卉をはじめとした園芸作物の栽培が伸びている。

アフリカの西部については想起しやすかったと思われるので、東部について不足なく書けたかどうかがこの問題の焦点となるだろう。

(高橋粒, 來往直哉)

2016 年度 大阪大学 前期 地理

(II) 世界遺産・自然公園

出題範囲	環境問題
難易度	★★★☆☆
所要時間	30分
傾向と対策	200字記述が2題と、例年通りの記述量である。問1は世界遺産の定義と種類を問う問題で、少し難しい。阪大では、このような語句の定義を問う問題が出題されることがあるので注意したい。問2は世界遺産や自然公園に指定されることのメリットとデメリットを指摘させる問題。ニュースでも取り上げられる機会がある、有名な内容である。粘り強く解答を作成し、少しでも多く部分点を取りにいこう。

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい地名を青字で記載した

解答例

- 問1 普遍的価値をもった人類の共有遺産を損傷や破壊などから保護、保存し、次世代に引き継ぐことを目的に、1972年にUNESCOで世界遺産条約が採択された。世界遺産はこの条約に基づき世界遺産リストに登録されたものである。世界遺産には、記念物、建造物、遺跡、文化的景観などを対象とする文化遺産、地形や地質、生態系、絶滅のおそれのある動植物の生息地などを対象とする自然遺産、文化遺産と自然遺産の両方の要素をあわせもつものを対象とする複合遺産の3種類がある。(217字)
- 問2 国際機関や国、自治体の支援を受けて保護の動きが高まるほか、文化的、自然的な価値が広く認識されるようになる。また、観光客数が大きく増加し観光収入の増加や雇用の拡大、インフラ整備などにより地域経済が発展する。しかし、観光地化が進むと観光客数の増加により遺産の損傷が進むほか、観光開発に伴い周辺環境の悪化がもたらされる。さらに、開発規制がなされることでかえって地域の経済活動が妨げられる恐れがある。(196字)

問1 難易度：★★★★☆

解答例

普遍的価値をもった人類の共有遺産を損傷や破壊などから保護、保存し、次世代に引き継ぐことを目的に、1972年に UNESCO で世界遺産条約が採択された。世界遺産はこの条約に基づき世界遺産リストに登録されたものである。世界遺産には、記念物、建造物、遺跡、文化的景観などを対象とする文化遺産、地形や地質、生態系、絶滅のおそれのある動植物の生息地などを対象とする自然遺産、文化遺産と自然遺産の両方の要素をあわせもつものを対象とする複合遺産の3種類がある。(217字)

解説

世界遺産の定義と種類を問う問題。世界遺産の定義を詳細に記憶している人は少ないだろう。世界遺産の意義を意識しながら、その定義を考えてみよう。また、世界遺産の3種類については説明できるようにしておきたい。

世界遺産の制度が始まったきっかけは、アスワンハイダム建設によって水没の危機に瀕していたヌビア遺跡の救済キャンペーンを展開したことである。次世代に引き継ぐべき普遍的価値をもった人類の共有遺産を損傷や破壊などから保護し、保存することを目的に1972年、UNESCO で世界遺産条約(正式名称「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」)が採択された。

世界遺産には文化遺産、自然遺産、複合遺産の3種類がある。文化遺産には日光の社寺、法隆寺、富士山といった、記念物、建造物、遺跡、文化的景観などが登録される。自然遺産には知床や白神山地といった、地形や地質、生態系、絶滅のおそれのある動植物の生息地などが登録される。そして、複合遺産にはマチュ・ピチュといった、文化遺産と自然遺産の両方の要素をあわせもつものが登録される。2017年の時点で日本の文化遺産は16件、自然遺産は4件登録されており、複合遺産は登録されていない。

問2 難易度：★★★★☆

解答例

国際機関や国、自治体の支援を受けて保護の動きが高まるほか、文化的、自然的な価値が広く認識されるようになる。また、観光客数が大きく増加し観光収入の増加や雇用の拡大、インフラ整備などにより地域経済が発展する。しかし、観光地化が進むと観光客数の増加により遺産の損傷が進むほか、観光開発に伴い周辺環境の悪化がもたらされる。さらに、開発規制がなされることでかえって地域の経済活動が妨げられる恐れがある。

(196字)

解説

世界遺産や自然公園に指定されることのメリットとデメリットを考える問題。遺産そのものへの影響とその周囲への影響の2方面から考えていこう。

まずメリットを挙げていく。世界遺産や自然公園の指定を受けると、遺産の保護のため国際機関や国、自治体からの支援を受けることができる。それまで資金難などを理由に十分に保護がなされず、損傷や破壊の危機にあった遺跡にとっては大きなメリットである。また、指定を受けることで文化的、自然的な価値がより広く、深く認識されるようになる。

さらに、認知度が高まることで、**観光客数が大きく増加**すると考えられる。特に世界遺産の指定を受けると、ツアーコースの設定や観光ガイドへの掲載がなされ、数年のうちに観光客が数十倍になることも珍しくない。こうして観光収入の増加や雇用の拡大がもたらされ、高速道路などのインフラ整備が行われ、**地域経済の発展**につながるのである。

一般的には上記のようなメリットが強調されがちであるが、デメリットも少なくない。観光客が増加することはメリットであると同時にデメリットにもなりうる。マナーの悪い観光客によって**損傷や破壊**が進むほか、観光開発のために自然環境が破壊され、騒音問題が深刻化することで**周辺環境が悪化**する危険がある。

遺産保護のため開発規制がなされることで、**地域の自由な経済活動が妨げられてしまう**おそれがあるという点も指摘できる。例えば、火山の多い日本において**地熱発電**が盛んでない理由の1つは、地熱発電所の建設候補地のほとんどが自然公園に指定されており、開発が規制されているためといわれている。

さらに、観光開発による利益が外部の企業に流れ、**立地地域がその恩恵を十分に受けることができない**という問題点も挙げられる。こうしたデメリットから、あえて地元の観光地が世界遺産や自然公園などの指定を受けないよう自治体や住民が働きかけている事例もある。

(來住直哉, 高橋粒)